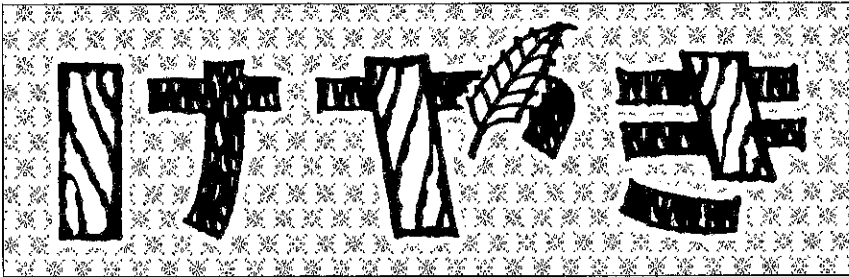


# 岩手県立盛岡となん支援学校 同窓会

所在地 岩手県紫波郡矢巾町医大通2-1-5  
電話 (019) 601-2227  
FAX (019) 698-4352  
発行者 岩手県立盛岡となん支援学校同窓会事務局



## 「コロナ禍で思うこと」

同窓会会長 熊谷 佳久

皆様、こんにちはお元気で  
しょうか？

この数年間は、コロナウイ  
ルスの大流行で外出制限など  
があり、大変な時期を過ごし  
れたと思います。

私も五十五歳になりました  
が、この数年のことは初めて  
の出来事でした。高等部を卒  
業してからも四十一年も経つ  
のだな一と思っっています。

私が高等部だった当時は、  
都南大橋が建設中で旧校舎に  
行くために、バスセンターか  
らのバスが、一時間に一本と  
いう感じでした。帰る時、バ  
スに間に合うように坂を走っ  
て行ったこともありました。  
今の校舎は矢巾に移転して  
とても良い環境だと思ってい  
ます。

私はというと、卒業後東京  
の職能開発センターで二年間  
行き、いろいろな経験ができ  
たことが私にとっての貴重な  
経験になっています。

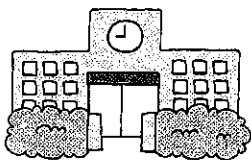
盛岡に帰ってからは、更生  
工場に十年くらい勤めて、社  
会人の基礎ができました。ス

ポーツや、サークル活動もやっ  
ているいろいろな経験ができた  
た。

さて、これからの同窓会活  
動ですが障害の重度化に伴い、  
役員会なども対面で行う事は  
難しいのが現状です。しかし、  
IT化の進歩に加え、コロナ  
ウイルスの大流行の副産物と  
して、ZOOM等のオンライン  
会議のツールが発達してき  
ています。私たち障がい者に  
とってもとても便利なツール  
です。

個人の意見ですが、学校  
側に協力してもらい、県外に  
いる卒業生や施設に入所して  
いる卒業生など、多くの人達  
に、役員になってもらい、同  
窓会活動を盛り上げて行けれ  
ばと思っています。

何卒よろしく願います。



## 「つなぐ心をひとつに新たな歴史へ」

校長 横澤 修

同窓会会員の皆様には、本  
校教育の発展と充実に向け、  
日頃より温かい励ましを頂い  
ておりますことに、あつく御  
礼申し上げます。

さて、私が盛岡となん支援  
学校に赴任して三年目となり  
ます。この間、同窓会報をは  
じめとする様々なものに「新  
型コロナウイルス」のことば  
かり書いてきたような気がし  
て残念な気持ちです。そこで  
今回は違うことを書いてみま  
す。

昭和三十七年四月に開校し  
た盛岡となん支援学校は、昨  
年度に開校六十周年目を迎え、  
今年度は運動会や体育祭、け  
やき祭などの大きな行事に  
「創立六十周年記念」という冠  
(かんむり)タイトルがつけら  
れております。人間で言うな  
らば「還暦」。一つの大きな歴  
史の区切りでもあります。十  
月七日(土)に開催されるけ  
やき祭のテーマとして生徒が  
考えた「新たな歴史へ」とい  
うテーマも、この創立六十周  
年に基づくものです。

開校当時、小学部一年生だっ  
たその時の児童は、同窓会員  
として今、六十六歳くらいで  
しょうか。校長室に残る古い  
アルバムや記念誌をひもとき  
ながら、たくさんの先輩方が  
学校が好きでいてくれたこと、  
たくさんの保護者の方々、先  
生方が学校を励まし、支えて  
くださったことを心の中にしっ  
かり抱き留めて今年度一年を  
過ごそうと思っっているところ  
です。

盛岡となん支援学校の六十  
年の歩み。何よりこの学校で  
仲間とともに過ごす時間を楽  
しみ、時には競ったり悩んだ  
りしながらも、確かにぐんぐ  
んと育っていったであろう、  
熊谷佳久同窓会長をはじめと  
する同窓生の皆様の大切な思  
い出。ぜひとも、来年度に開  
催される予定の久しぶりの同  
窓会総会では、本校六十周年の  
まとめを少しでも皆様とも共  
有できますよう、総会の持ち  
方の工夫も含めて準備をして  
参りたいと思います。